

徳島文理大学大学院 看護学研究科

博士後期課程

博士前期課程

自分にあったスタイルで学び、
系全馬価値を確かなものにする

3つのミッションを追求します

創造的な研究能力を備えた高度な
専門的知識・技能をもつ

高度看護専門職者の養成

研究能力と教育能力を備えた
高度なマネジメント能力をもつ

看護管理者の養成

優れた教育能力や創造性豊かな
研究能力をもつ

看護教育者・研究者の養成

入学試験 日程案内 (一般入学試験・社会人入学試験)

※大学を卒業していない方も受験できます (要事前相談)

I 期

2023年

11/24 (金) ▶ 12/7 (木)

消印有効

II 期

2024年

1/12 (金) ▶ 1/24 (水)

消印有効

III 期

2024年

2/9 (金) ▶ 2/21 (水)

消印有効

出願期間

試験日

2023年

12/16 (土)

2024年

2/3 (土)

2024年

3/2 (土)



SINCE 1895



看護学研究科の
詳細はこちら

徳島文理大学大学院 看護学研究科

徳島キャンパス
詳しくはWEBから

〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示 180 tel. 088-602-8030
<https://www.bunri-u.ac.jp/faculty/graduate/department/nursing/>

大学院看護学研究科WEBオープンキャンパス

10.6 Fri.
18:30 ▶ 19:30

大学院の説明及び個別相談

- ・お申し込みはQRコードからアクセスしてお申し込みください。
- ・受験を検討中の方だけでなく、少しでも大学院にご興味がある方は、ぜひお気軽にご参加ください。
- ・教員への事前相談は、随時受け付けております。



ZoomによるWEB開催

看護職者として

自律的・継続的な学びの戦略を練る



博士前期課程

〈基盤機能看護学〉

- 理論看護学領域
- 看護管理学領域
- 看護教育学領域

〈実践看護学〉

- 療養支援看護学領域
- 母子健康看護学領域

研究の方法を学ぶ

看護理論や研究方法を学び、看護研究能力をもった看護職者になるために必要な知識を得ます。論文のクリティーク力がつくど、先行研究で明らかになっていることや研究の限界、さらなる研究の必要性がみえてきます。研究に取り組むことで、あなたの日々の疑問を解決し、より良い実践につながる新しい知見を見出せます。

博士後期課程

〈基盤看護学〉

- 理論看護学領域
- 看護教育管理学領域

〈実践看護学〉

- 療養支援看護学領域
- 地域・在宅看護学領域
- 母子看護学領域

自律した研究者として、挑戦的に研究に取り組む

研究者として自律して研究活動が行えるよう、また研究的・教育的指導ができるために必要な哲学的基盤となる学識も養います。博士前期課程を修了した人は、さらに博士後期課程において学ぶことで看護学の発展に寄与してもらいたいと願っています。

よくある質問をまとめました

■社会人入試とは何ですか？

看護職として実務経験を3年以上有する人を対象とした入試です。看護系大学を卒業した人でなくても出願できますので、事前に相談をしてください。

■働きながら学べますか？

社会人が仕事を続けながら学べるよう、平日の夜間や休日等にも授業や研究指導を行っています。自宅においてオンラインによる授業や研究指導を受けることも可能です。

■長期履修制度

履修年限を博士前期課程は3年、博士後期課程は5年まで延長することが可能で、仕事や子育てと両立しながら学業に取り組むことができます。学費は履修年限に応じて分納するため、1年度あたりの学費負担を軽減させることができます。

■費用は？免除制度は？

授業料は年額600,000円です。入学金は200,000円です。本学の卒業生は入学金と施設費および研修部入会金が免除されます。本学の臨地実習施設等の正規職員は、原則として在職中の施設費が免除されます。

■学位や資格は？

学位は修士（看護学）、博士（看護学）が授与されます。また以下の資格を取得できます。

- 1) 認定看護管理者 (Certified nurse administrator:CAM) の受験資格
- 2) 看護師養成所の専任教員の資格：「看護教育学領域」を修了し、保健師、助産師又は看護師として指定規則別表3の専門分野の教育内容のうち1つの業務に3年以上従事した者は看護師養成所の専任教員になることができます。

院生の声

大学院での学びは、助産師として自分の世界観を広げることができました。学ぶことの楽しさを感じています。

(博士前期課程学生)

大学院に入学を希望したきっかけは、実際に自分が経験し、実践してきたことが正しかったのかを評価し、確証が得たかったという思いからです。学びに、満足しています。

(博士後期課程学生)